

都市再生整備計画(第4回変更)

ぜんぎょうむつあいせいふ
善行六会西部地区

かながわ 神奈川県 ふじさわ 藤沢市

平成20年11月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	ふじさわ 藤沢市	地区名	せんぎょうつあいせいぶ 善行六会西部地区	面積	477 ha
計画期間	平成	8	年度	～	平成	20	年度
				交付期間	平成	16	年度
					～	平成	20
							年度

目標	
ひと、みち～地域連携が創り出す～災害に強い安心安全まちづくり	
目標1	「災害に強いまちづくり」
目標2	「消防・救急活動を支える安心まちづくり」
目標3	「『ひと』と『車』の安全まちづくり」

目標設定の根拠	
まちづくりの経緯及び現況	
<p>当地区のまちづくりの経緯は、昭和30年代初期からすすめた藤沢市域南部の既成市街地整備を中心とする「藤沢総合都市計画」と、市域北部で湘南台駅開設をセットとした「北部工業開発計画」、さらには高度成長期のスプロール開発に対応したニュータウン建設計画である「西部開発計画」の、三つの計画区域に囲まれた地区であり、それら計画のおおよその完成を見るに至った今日、どの開発計画にも含まれなかった当地区の都市基盤の脆弱さが浮き彫りになってきています。しかしながら、鉄道駅に近接しており、早くから公団建設がすすめられた当地区は、民間の宅地開発や中小規模の土地区画整理事業が多く施行され昭和45年当時から部分的にD1D地区に編入されるなど、根幹的なまちの基盤である都市計画道路整備が遅れたまま約2.8万人の人口を抱えるに至っています。</p> <p>また、当地区は「ふじさわ総合計画2020」の災害に強いまちづくりで位置付けられている、避難場所を中心とした防災施設整備、多様な訓練に対応できる防災訓練場の整備、防災空間としての道路整備をすすめるものとし、さらに地域住民が組織するくらしまちづくり会議でも、総合的な防災対策という視点からまちづくりをすすめる必要性や地区内道路の安全性向上などの議論がさかんになされ、平成10年度より現在に至って多くの政策提言を受け、それに基づき市内横断的組織である、まちづくり事業研究会を設置し、住民と市の連携のもと当都市再生整備計画を含むまちづくり施策をすすめているところです。</p>	
課題	
<p>当地区は市域中心部に位置していながら、都市計画道路の多くが未整備でネットワークとして機能していない状況です。このことから、住民は日常的に通過交通流入による地区内道路の危険性増大に悩まされ、さらに地区内には広域避難場所をバランスよく配しながら、そこへ至る避難経路の確保も困難となっています。また、緊急車両が現場に急行する際も当地区を大きく迂回して経路を選定している状況であり、これら地域の特徴に対応して安心安全のまちづくりや密接な地域連携の観点から効率的で円滑な道路ネットワークの確立が今後の大きな課題となっています。さらに、地区内の避難施設は老朽化が目立つことから地震補強が急務となっており、それに合わせて阪神淡路大震災を教訓とした災害用トイレ整備、食料や資機材の充実などが住民組織である「くらしまちづくり会議」から提言されるなど災害に強いまちづくりの「基盤」づくりが求められています。これに加えて住民組織や消防隊などが災害時に充実した防災活動ができるように、防災訓練などを通じた災害に強いまちづくりの「担い手」となる人材の育成と、最新の消防関連機材やIT技術を駆使した災害情報収集機器など災害からまちやひとをまもる「道具」の整備といった、総合的な災害対策が必要となっています。</p>	
将来ビジョン(中長期)	
<p>当地区は、「ふじさわ総合計画2020」の防災性の向上と「藤沢市都市マスタープラン」の隣接地域とのネットワーク確立を実現するため、早急に南北交通需要に対応した、都市計画道路藤沢石川線、都市計画道路善行長後線を整備し、5年後を目途に東西交通需要に対応した都市計画道路亀井野二本松線の着手を図ります。これにより、当地区によって分断されてきた都市計画道路ネットワークが完成し、効率的で円滑な交通環境が実現され、都市防災上も防火区画が確立し、充実した避難経路が確保されます。また、地区西側を南北に流れる二級河川引地川は水害防止対策をすすめるとともに、緑道の整備を図り、さらに河川沿いの斜面緑地は緑地保全地区の指定拡大をすすめるものとして都市の潤いの確保と、防災空間の拡大を図ります。なお、開発行為やまちづくりの機運等地域社会の変化の動向を契機とし、「藤沢市都市防災基本計画」に基づく、地区計画制度を活用した防災性の向上や、当交付金で整備する避難路(都市計画道路藤沢石川線)の沿道不燃化を促進するなど、総合的な施策展開により当地区の災害に強い安心安全まちづくりを継続してすすめていくものです。</p>	

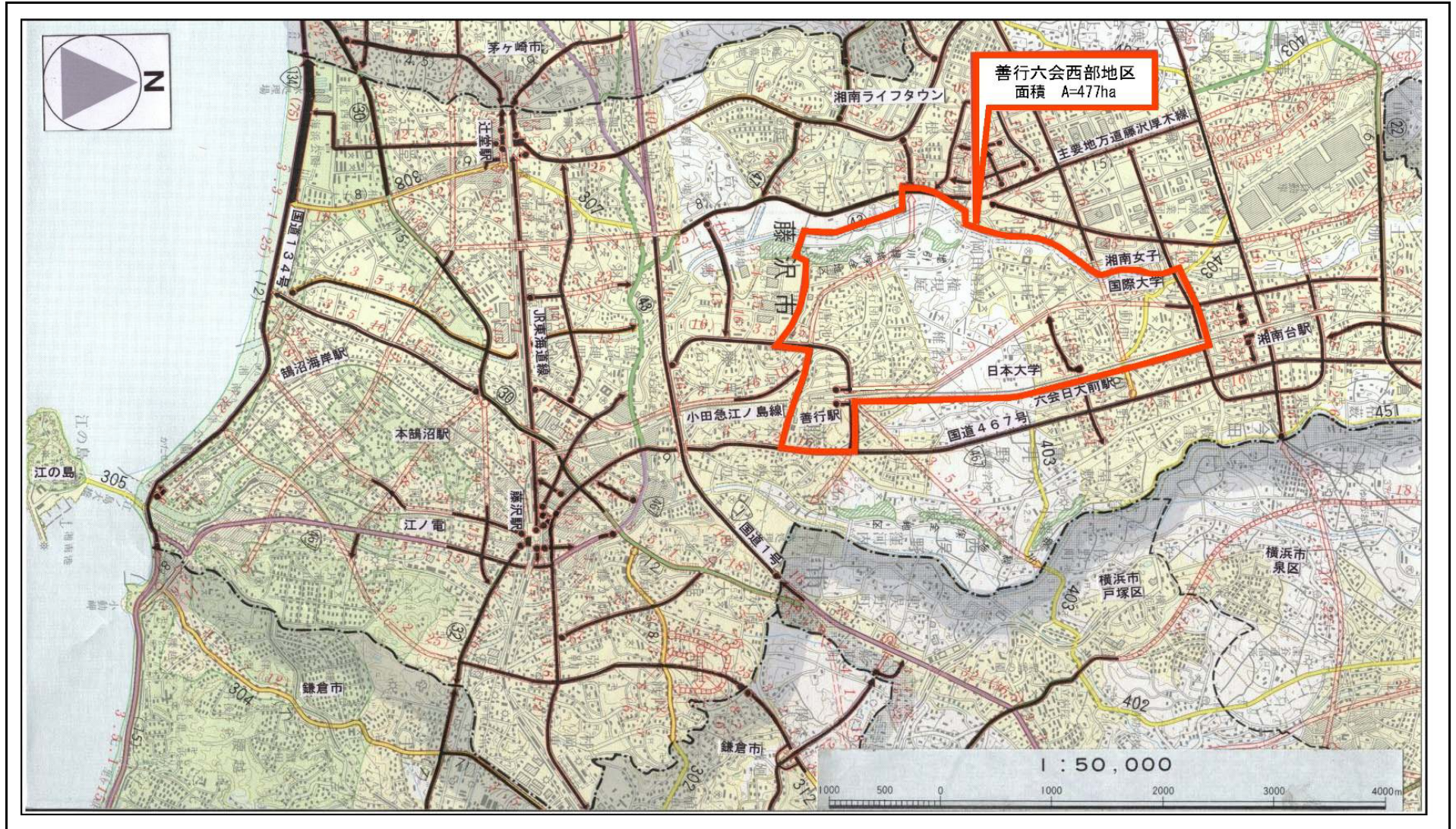
目標を定量化する指標							
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
広域避難困難区域率	%	地区内で、広域避難場所への経路が2kmを超える区域の割合	避難路整備により安全避難区域の拡大を図る	34%	平成15年度	20%未満	平成20年度
緊急車輛移動時間短縮率	%	救急・消防緊急車輛の活動拠点までの移動に要する時間の短縮	道路整備により緊急活動時の移動時間短縮を図る	100%	平成15年度	75%	平成20年度
アンケートによる「まち」の安心度チェック	%	アンケートによる地区内道路の安全性と救急消防活動の満足度	都市計画道路整備による地区内交通の静穏化や緊急車輛活動空間の確保による住民の安心度を高める	24%	平成16年度	33%	平成20年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1（地域の連携を図り、災害時の避難行動や救援活動を支える、「災害に強いまちづくり」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災活動に欠くことのできない地域連携の基礎となるまちづくりをすすめて、主要な避難路の整備を図ります。また、整備した避難路には的確な避難行動がとれるよう計画的に避難場所誘導板や地区防災情報板を配します。 ・地域防災計画上の地区内全避難施設に建物の地震補強、埋設型簡易トイレ、防災備蓄倉庫をパッケージとした避難施設としての「基盤」づくりをすすめ災害時の避難生活に備えます。 ・災害時の延焼遮断機能等を併せもつオープンスペースとして緑地を確保し維持保全を図ります。 ・災害時は避難施設として利用し、平常時は消防隊、消防団員訓練拠点機能及び地域の消防訓練から大規模な防災関連の訓練拠点機能を備えた消防訓練センターを整備します。これにより地区の防災力向上の「担い手」となる人の救援活動・消火活動の技術力育成を図ります。 ・地区内の既存建物で市内最大規模の建築物、日本大学校舎を活用して屋上に、災害時の情報収集に有効な「道具」である防災カメラを設置し、災害時いち早く建物被害や鉄道、道路等の被害状況を詳細に把握し的確な救援・救護活動を図ります。 ・強雨により浸水する区域に存する都市計画道路石名坂立石線の排水能力の向上を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹事業:道路(藤沢石川線,善行長後線) ・基幹事業:地域生活基盤施設(防災情報事業) ・基幹事業:地域生活基盤施設(緑地事業) ・関連事業(地震補強事業) ・提案事業:地域創造支援事業(埋設型防災簡易トイレ設置事業) ・提案事業:地域創造支援事業(消防訓練センター設置事業) ・提案事業:地域創造支援事業(防災カメラ設置事業) ・関連事業(公共下水道事業)
<p>整備方針2（都市の「基盤」と情報収集の「道具」を整備して、「消防・救急活動を支える安心まちづくり」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防・救急活動を支える「基盤」として都市計画道路を整備することにより、緊急車輛の移動距離短縮、移動速度アップを図ります。これにより火事の拡大を防止し、人命に直接影響する初期救命活動の効果を高めます。 ・地区内の既存建物である日本大学校舎を活用して、屋上に消防活動を支える「道具」として防災カメラを設置し、火災等通報者の電話局番から自動的に対象地区を限定し画面に映しだすシステムにより、迅速かつ適切な対応を可能とした、高いレベルの救援救助活動を実現します。 ・地区内には、都市計画道路に併せ整備された都市計画駐車場「六会日大前駅西口自転車等駐車場」があり、当該施設における盗難、いたずら、不審火などの施設管理上、利用者の安全上の課題を解消し地域住民が安心して安全に施設を利用できるよう、監視用の防犯カメラを設置します。 ・地区内の六会日大前駅改札広場と六会日大前駅東口自転車駐車場の間に連絡通路を設けることで、これまで人の通りがなく治安上問題とされていた箇所を解消し、住民が安心して施設を利用できるように、自転車駐車場から直接駅改札に連絡でき利便性も向上します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹事業:道路(藤沢石川線,善行長後線) ・提案事業:地域創造支援事業(防災カメラ設置事業) ・提案事業:地域創造支援事業(防犯カメラ設置事業) ・提案事業:地域創造支援事業(六会日大前駅東口連絡通路設置事業)
<p>整備方針3（地区内の道路から通過交通を減らす、「『ひと』と『車』の安全まちづくり」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の骨格となる補助幹線道路整備と、区画道路の取付計画を総合的にすすめて、地区内の道路から通過交通を排除し、歩行者の安全性を向上します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹事業:道路(藤沢石川線,善行長後線)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業中～終了後の継続的な住民参加のまちづくり活動 ・住民参加のまちづくりとしては、住民と市のパートナーシップによる市政運営を実現するため、新しい市民提案システムとして平成9年度より、「くらしまちづくり会議」制度を設け、住民主体でまちづくりの課題解決方法を議論し、市に施策提言をする住民組織を設置しており、この善行・六会くらしまちづくり会議から防災対策をテーマとした提言を継続的に受けており、その提言を反映した施策をすすめているところであります。この会議は、事業中の新たな提言の追加や、事業終了後の提言に対する市の事業実施状況を追跡調査していくなど、まちづくり活動を継続していくものです。 ・事業の進捗状況については、広報紙「広報ふじさわ」において継続的に広報します。 ・事後評価については、住民の事業効果に対する実感を事前に行ったアンケート調査結果と比較し、数値として評価すべくアンケート調査を実施します。 ○交付期間中の計画管理 ・本都市再生整備計画の管理は、庁内横断的組織として新たに発足した「まちづくり事業研究会」にて、事業間の問題処理や時間経過とともに生じる社会情勢の変化に対応し本計画の見なおしなどの管理を行っていきます。 	

都市再生整備計画の区域

ぜんこうむつあいせいびが 善行六会西部地区(神奈川県藤沢市)	面積 477 ha	区域 天神町一丁目、天神町二丁目、天神町三丁目、善行一丁目、善行二丁目、善行三丁目、善行四丁目、善行五丁目、善行七丁目、善行坂一丁目、善行坂二丁目、善行団地の全部と湘南台二丁目、湘南台三丁目、円行、亀井野、大庭、石川の一部
--	-----------	---



ぜんぎょうむつあいせいぶちく ふじさわ
善行六会西部地区(神奈川県藤沢市) 整備方針概要図

目標	ひと、みち～地域連携が創り出す～災害に強い安心安全まちづくり	代表的な指標	広域的避難困難区域率 (％)	34%	(H15年度)	→	20%未満	(H20年度)
			緊急車両移動時間短縮率 (％)	100%	(H15年度)	→	75%	(H20年度)
			アンケートによるまちの安心度チェック (％)	24%	(H15年度)	→	33%	(H20年度)

